



研究者として「生きる」6人が、「光」をテーマに自身の研究内容を熱く語ります。あなたの暮らしをより明るく楽しくするようなお話をお届けします。話ははじめから丁寧にご説明するので「ライト(気軽)に」ご参加ください。まるでカフェでおしゃべりするような感覚で、お茶やお菓子を楽しみながらサイエンスをお楽しみいただけます！



- | 時間 15:00 ~ 16:30 (14:45受付開始)
- | 場所 柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)
※柏の葉キャンパス駅から徒歩2分
- | 定員 25名(事前申し込み制、先着順)
- | 対象 大人の方ならどなたでも
興味はあるけれど、日頃あまり科学に触れる機会がないという方大歓迎
- | 参加費 1,500円(軽食・飲食費込み)
- | 詳細・お申込み
<http://udcx.k.u-tokyo.ac.jp/KSEL/>



第1回 2017.10.14 (土) 「光×銀河」

菅原 悠馬

(東京大学宇宙線研究所 博士課程1年)

銀河は何百億個もの星が集まってできた大きな天体です。僕らは望遠鏡を駆使して、銀河の姿を解き明かそうと日夜奮闘しています。解明の鍵は銀河が発する光です。銀河の明るさや色を調べることで、その活動から歴史まで様々な性質を推理するので、光を使って銀河の世界を探検しましょう！



第4回 2018.1.13 (土) 「光×電気自動車」

延命 朋希

(東京大学工学系研究科 博士課程1年)

自動運転の実現と電動化への潮流を軸に、昨今の自動車産業は激動の時代を迎えています。今回は特に、電気自動車(EV)ならではの独自の自動車利用法に着目！「Vehicle to home」や「走行中給電」といった最新鋭のEV技術を中心に、「光」というテーマと絡めてお届けします。



第2回 2017.11.18 (土) 「光×光」

秦 大樹

(東京大学新領域創成科学研究科 修士)

虹、夕焼け、金属光沢、水の色…光に関する現象は数多く存在します。今回焦点を当てるのは、光と光が出会ったときに起きる「干渉」です。シャボン玉など身近なものから、重力波検出のような最先端の技術まで、簡単な実験も交えて紹介します。身近にあふれる光が、明日からちょっと違った見方になるかも？



第5回 2018.2.10 (土) 「光×地盤」

小林 怜夏

(筑波大学システム情報工学研究科 修士課程1年)

昔から老若男女誰もが惹き付けられてきた月の光。あの優しい光は月の「地盤」のおかげであることをご存じでしょうか？月の光と地盤の関係を紐解きながら、ついに現実味を帯びてきた月面開発に欠かせない地盤工学分野の研究を紹介します。私達が月面に立つ日と一緒に想像してみましょう。



第3回 2017.12.9 (土) 「光×エアロゾル」

宮本 千尋

(東京大学理学系研究科 博士課程1年)

「エアロゾル」って聞いたこと、ありますか？黄砂やPM2.5はいかがでしょう？エアロゾルとは大気中に浮かぶ小さな粒子のことです。実はこれらが太陽光を跳ね返したり吸収したりして地球の気候に大きな影響を及ぼすらしい…!?大気中の小さな粒子の大きなはたらきをご紹介します。



第6回 2018.3.10 (土) 「光×磁石」

松浦 康平

(東京大学 新領域創成科学研究科 博士課程1年)

世の中の様々な物質の性質を調べるうえで、光は重要な役割を果たします。今回は「磁性」という性質に注目します。磁性は磁石の性質で、私たちの身近に存在します。この磁性に関する光を使った最先端の物質科学の研究をご紹介します。

